

20

千代田区景観まちづくり重要物件

お茶の水スクエア A 館

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田駿河台一丁目 6 番地

設計者 磯崎新アトリエ

竣工 1987（昭和 62）年

文化財等
指定状況



▲歴史的な意匠を継承しつつ高層化されたお茶の水スクエア A 館

歴史・文化的特徴

お茶の水スクエア A 館は、はじめは 1925（大正 14）年に出版社・主婦の友社の社屋として建てられました。設計者は、山の上ホテルの設計にも携わったウィリアム・メレル・ヴォーリズです。1987（昭和 62）年、旧主婦の友社社屋は解体されましたが、日本を代表するポストモダンの建築家・磯崎新氏のデザインにより、旧館を復原しながら高層棟が建てられました。

「第 1 回千代田区景観賞 ちよだ景観大賞（平成 4 年度）」を受賞しています。

2002（平成 14）年に日本大学へ売却され、B 館・C 館は取り壊されました。2004（平成 16）年に法科大学院が開設され、日本大学お茶の水キャンパスと改称されました。

意匠・構造の特徴

歴史的意匠を引用しつつ、現在のデザインと対照させたポストモダン建築の代表作のひとつです。旧主婦の友社社屋は、構造的理由でそのままでは保存できず、ヴォーリズの原設計図面を元に、テラコッタの装飾も含め、外観は往時のまま復原されました。そのテクスチャーに近いインド砂岩の多用により低層部が構成され、高層部は鈍い輝きを放つブルーのラスタータイルで対照させています。同時に作られた室内楽専用ホール・日本大学カザルスホールへの入口まわりは、コンサート空間への導入部としてヒューマンで繊細なスケール感覚となっています。



▲細部のデザイン

周辺景観との関係

周辺に日本大学の駿河台キャンパスの各校舎（歯学・理工学）と付属病院が立地し、正面には高層ビルである明治大学リバティタワー（駿河台校舎）がそびえる文教地区になっています。

多くの学生の記憶に残る、駿河台の坂道の以前の面影を残した数少ない建物となっています。